

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けることができる。	・社会への関わり方を選択・判断することができる。 ・考えたことや選択・判断したことを適切に表現することができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・資料からどのように情報を取り出し、それをどのようにまとめればよいのか掴み切れていない。ア ・気付きや考えはあるが、それを適切に表現することが難しい。イ	・資料からの情報の読み取りや、まとめ方について、スマールステップで学習を積み重ねていく。ア ・他児童と考えを共有する際に、適切に表現できている児童を見付けさせたり、例として取り上げたりする。イ	通年ア 通年イ	・資料の見方や、着目するポイントを示し、繰り返し取り組むことで、まとめる力が身に付いてきた。ア ・資料の読み取りからの気付きや考えを、ノートやタブレットに書く児童が増えた。イ
第4学年	・資料を自ら読み取り、まとめる力が弱い。ア ・必要な情報を整理して、自らの言葉でわかりやすく表現することが難しい。イ	・資料を読み取る視点を示し、読み取ったことを共有する。ア ・新聞作りやパンフレット作りなど考えをまとめる活動を多くする。イ	通年ア 単元のまとめイ	・読み取ったことをノートに書く力は身に付いてきた。事前に指名することを伝えることで、発信できる児童が増えた。ア ・情報を整理してまとめる意識が高まり、必要な資料を添付してまとめられる児童が増えてきた。イ
第5学年	・いくつかの資料を読み取り、情報をつなぎ合わせてまとめる力が弱い。ア ・資料から読み取ったことを、自分の言葉で明確に表現する力が弱い。イ	・読み取る視点を明確にして、つながりを想起できるようにする。ア ・表現の工夫をしている児童を例として共有する。イ	通年ア 通年イ	・提示する資料を絞ることで、情報を読み取ることができるようになってきた。ア ・資料から読み取ったことを、ノートやタブレットに文で書く児童が増えた。イ
第6学年	・社会的事象を解決するために必要な情報だけを資料から探し出す力が弱い。ア ・図表を活用して説明する力に課題がある。イ	・今聞かれていることは何かを明らかにして、必要な情報だけを読み取れるように資料の読み取りを提示していく。ア ・図表の読み取り方を都度確認し、図表にまとめる習慣を付ける。イ	通年ア 通年イ	・資料の読み取る視点を提示することで、資料から必要な情報が読み取れることできるようになってきた。ア ・図表から読み取れることをもとに自分の考えを書くことができるようになった。イ

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>3年 資料をもとに、気付いたことや考えたことを表現することができるよう に、資料をロイロノートで共有する。必要に応じて複数の資料を提示 し、比較できるようにする。【重点:個別】</p>	<p>3・4年 興味・関心を高める資料を提示し、自分の生活と結び付けて、学 習意欲につなげる。</p>
<p>4年 動画等を活用して、資料を提示し、まとめたものを共有する。【重点: 個別】</p>	<p>5年 学習問題を児童の気付きから作成し、自分の生活と結び付けて、学 習意欲につなげる。</p>
<p>5年 問題に対して様々な視点で調べることができるよう、一人一人がイン ターネットを利用する。【重点:個別】</p>	<p>6年 学習問題や学習計画を立てる際に単元を通して何を理解するのか明 らかにする。</p>
<p>6年 学習問題を解決するためにどのような情報を調べるのか明確にし て、インターネットを活用する。【重点:個別】</p>	